

【日光砂防管内】 令和元年台風19号における砂防事業の効果

- 台風19号により日光地区では、昭和41年豪雨規模の豪雨となったが、砂防施設479箇所が整備されていたことから、**被害を未然に防止**できたと推定。
- 他方、地球温暖化等の影響により、今回以上の豪雨となれば、同時多発的な土砂災害が発生することから、引き続き**計画的な砂防施設の整備が必要**（例：H27関東・東北豪雨 603mm）

＜砂防施設効果＞

横川砂防堰堤（高さ：9m、長さ：67m）

台風前（H30.5.21）

台風後（R1.10.14）



施設効果：流木捕捉量：約180m3

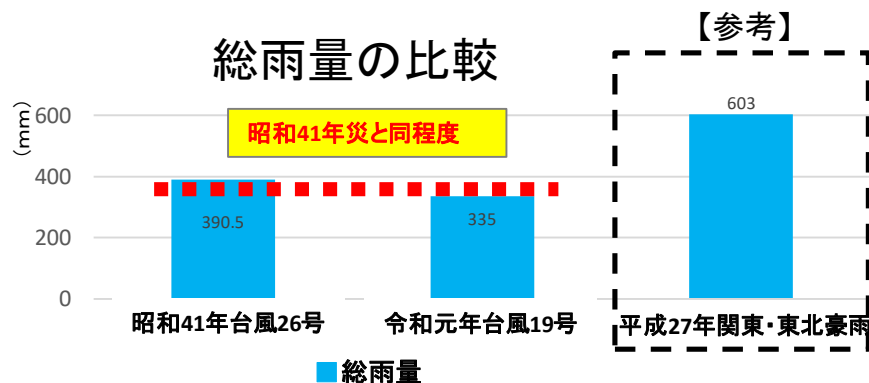


日光沢温泉の土石流被害
（昭和41年台風26号）



芹沢地区の土石流被害
（平成27年関東・東北豪雨）

総雨量の比較



砂防施設整備による被害軽減効果

